

文字と文明の

偉大な道程

5 インド・東南アジア文字 | 八千頌般若

経貝葉

『八千頌般若経』は、八千の偈頌(仏の功德や教えを講える韻文)から成る般若経である。この写本はヤシの葉に筆記されており、文字は初期ネパール系の文字と考えられる。裏面には表面とは異なる表記方法が見られ、文字を消して書き直した跡もあるが、これはインドの口承伝統の影響によるものと考えられている。写本の中央には、男性の菩薩像が描かれている。

6 漢字 | 石鼓文拓本

石鼓文は、石に刻まれて伝わる漢字の中で最も古いものである。「石鼓」とは石で作られた太鼓を意味し、その形が太鼓に似ていることから名づけられた。銘文には狩猟に関する内容が記されている。もとは10個の石に約700字が刻まれていたが、現在は摩耗により約270字のみが残っている。

7 ハングル | 訓民正音解例本

『訓民正音解例本』は、朝鮮王朝の世宗大王が制定した「訓民正音(ハングル)」の創製原理と使用法を漢文で解説した書物である。全33章から成り、訓民正音を作り出した目的と理由、文字の創製原理と発音体系、さらに文字の組み合わせ方や使用例などを詳しく説明している。文字の創製原理を記録した世界で唯一の書物として、1997年にユネスコ世界記録遺産に登録された。

1 楔形文字 | 円形船形粘土板

古バビロニア時代に作られたと推定されるこの粘土板には、表裏合わせて約60行の楔形文字が刻まれている。この粘土板の内容は、アッカド語版の洪水神話と考えられる。大洪水神話は世界各地に見られるが、いずれも共通して、神々が洪水を起こして人類を滅ぼそうとし、それを知った主人公が舟を造って危機を乗り越えるという筋立てをもつ。

2 エジプト文字 | シャブティ

シャブティとは、古代エジプト人が死者とともに副葬した葬礼人形で、エジプト語で「答える者」を意味する。このシャブティの身体には、『死者の書』第6章の呪文がエジプト文字で記されており、死者の名が呼ばれたときに、死者に代わって答えるという内容が刻まれている。

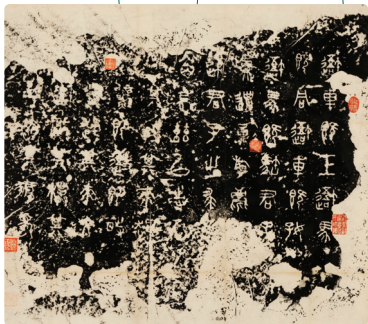
3 ラテン文字 | 大理石の骨壺

この骨壺からは、古代ローマ時代における上流階級の葬送文化を垣間見ることができる。妻が亡き夫のために作ったものと考えられる。両脇に眠る愛の神クビドが刻まれており、もはや愛を交わせない夫を象徴している。碑文に使われている文字は、古代ローマの公式な碑文書体である「大文字記念碑体」。四角い形の格調高い大文字書体で、記念碑や官庁建築などに用いられた。

4 アラム文字 | コーラン

コーランは、イスラームにおいて最高の権威を持つ聖典である。様々な書体が用いられ、各章にはバラの花をかたどったロゼットや金彩装飾が美しく施されている。ムスリムにとって、神の言葉が記されたコーランを書き写すことは、重要な宗教的行為であった。そのため、コーランはアラビア語やアラビア文字の普及と発展にも大きな影響を与えた。

世界文字の紹介



開館時間

10:00-18:00

※最終入場は17:30まで

休館日

月曜日、1月1日、旧正月(ソルラル)・秋夕(チョソク)の当日

観覧料

無料

※20名以上の団体は、事前にご予約ください。

住所

〒22004

仁川(インチョン)広域市 延寿(ヨンス)区
セントラル路217

お問合せ

TEL 032-290-2000 / 2001

館内施設

1階 インフォメーションデスク、ミュージアムショップ、ロッカー、授乳室

2階 カフェテリア、散策路



人類には言葉と音がありました。文字がなかった先史時代、人類は言葉に表情と身振り手振りを加え、自分の考えと感情を伝えました。しかし、言葉は口から発せられた瞬間に消えてしまいます。互いに意思を伝えたいと願った人類は、その壁を越えようとしてきました。

その願いから生まれたのが、まさに「文字」でした。こうして人類は、言葉や音、思考や感情までも文字に記すことができるようになりました。文字によって記憶を残し、距離を超え、コミュニケーションの世界を広げていったのです。その瞬間、人類の歴史が幕を開けました。



金承永(Kim Seung-young), 〈パベル塔〉, 2023, 写真: 金用官(Kim Yong-kwan)

世界各地に散らばって暮らす人類は、置かれた環境に合わせて自らの文字を作り出したり、他の地域から伝わってきた文字を受け入れたりしました。文化の興亡と共に、文字は誕生と消滅を何度も繰り返してきました。文字は、ときに支配と被支配という政治的関係を通じて、ときに宗教的な信念や商人たちの交流を通じて、周辺の地域へと伝播してきました。

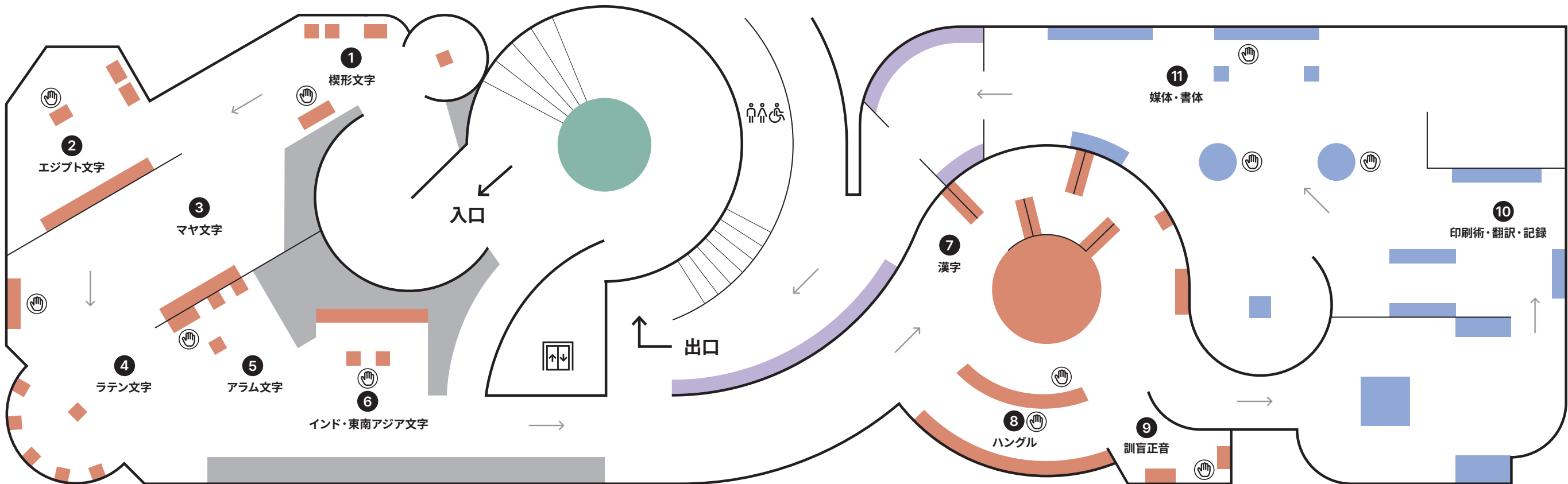
その結果、ヨーロッパにはラテン文字が、アジアにはアラビア文字が、インドにはデーヴァナーガリー系の文字が、そして東アジアには漢字が定着しました。歴史の中で人類が使用してきた文字は四百種を超えますが、今日実際に使われているのはわずか三十種ほどにすぎません。文字は、人類が共に創り、共に守り続けてきた大切な文化遺産なのです。

文字はいつの時代も、人類の歴史と文化の架け橋でした。人類は文字によって意思疎通に革命をもたらし、それによって社会制度をも絶えず進化を遂げてきました。そして、人類の意思疎通革命の中でも最も輝かしい出来事は、印刷術による文字の大衆化から始まりました。印刷機の発明によって、本が無限に複製できるようになりました。本が人々の身近な存在になるにつれ、より多くの書物が

翻訳され、記録されました。少数の権威と特権は、もはやその力を保つことができなくなったのです。文明を支えた陰の立役者は、まさに「紙」でした。紙は増大する書物の需要を満たさなければならず、限られた紙面にできるだけ多くの情報を載せようと、書体の改良も繰り返されました。印刷術は知識の大衆化を、翻訳は知識の拡散と共有を、そして記録は知識の伝承を導いていきました。

情報通信技術の飛躍的な発展は、大転換の時代を切り開きました。その変化の中心にあるのが、デジタル媒体です。デジタルは、知識を保存し、伝達する方法を根本から変えました。いま、私たちは映像で語り、音声で記録し、絵文字で感情を伝えます。人種や地域、歴史によって築かれてきた世界の言語と文字の壁は、デジタル技術によって

急速に崩れつつあります。人工知能(AI)を基盤とする翻訳技術は、人類をひとつ大きな枠の中に集めつつあります。しかし、技術の進化に適応できない文字は、やがて存続の危機に直面するかもしれません。一あるいは、全人類が共通して使う「世界文字」が、新たに誕生する日が訪れるのかもしれない。



- プロローグ: 偉大な発明
- 1部: 文字、道を開く
- 2部: 文字、文化を創る
- エピローグ: 明日の文字

👤 が表示がある場合には、
触察展示品が設置されています。

遺物の保護のため、
展示内容は変更になる場合があります。